



令和5年度 登別市立鷺別中学校 グランドデザイン



鷺別中学校の教育目標

健康で明るい人 情操豊かな人 勤労意欲の強い人 真理を愛する人 礼儀正しい人

校区がめざす 15 歳の子ども像

『受け入れ合い 支え合い 高め合う生徒』～互いの考えや意見を尊重した発言・行動を目指して～
「意見を伝える力」「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している態度」「自分と違う意見について考えることは楽しいと考える態度」

学校経営の理念

『進取の気性に富み、生徒・教員がともに学び続ける学校』
～自立・協働・創造を基軸としたウェル・ビーイングの実現～

チームで取り組む
ことができる学校

新しいことに挑戦
しようとする学校

笑顔が絶えること
のない学校

主体的に学びに向か
うことができる学校

経営・指導の重点および達成のための具体的方策

個別最適な学びと協働的な学びを効率よく取り入れ、
ICT及び端末を積極的に活用した授業改善
(推進の主体：研修部)

- ①考え方の交流、振り返りの場面においてもタブレット端末を積極的に活用する。
- ②授業等で共有ドライブに保存したデータを家庭学習や復習で活用する。
- ③根拠や理由を明確にしなが、相手に説明する活動を繰り返し取り入れることでプレゼン能力の向上につなげる。
- ④自らの学びの状況を的確に把握し、以後の学びを計画調整することができる能力や姿勢を身に付けさせる。

心理的安全性が保障され、
安心して発言・行動することができる環境づくり
(推進の主体：学級担任)

- ①日常的な関わりや全人的な教育活動を通じて、規律や正義等が確立され、受け入れ合い、支え合い、高め合うことができる集団づくりを目指す。
- ②どのような間柄であっても、非難語、からかい等が一切なく、温かみのある言葉で相手とつながり、生徒一人一人が居場所を感じる学校づくりを目指す。
- ③失敗することに対して寛容さがあり、次回の挑戦につなげようとする気持ちを醸成することができる雰囲気づくりに努める。

不登校生徒及び保護者に対する支援の充実

(推進の主体：いじめ・不登校対策委員会)

- ①登校したい気持ちや態度は十分認められるが、心因的な理由、健康面での不安等を理由として登校することができない生徒に対してはリモート授業を検討する。
- ②本人や保護者との面談、スクールカウンセラーからの助言等をもとに、不登校生徒支援シートを作成し、計画的な支援を行う。
- ③別室・保健室・放課後登校など、生徒の状況に応じて幅広い対応を行うとともに、スクールカウンセラーと連携し、本人への支援、保護者への啓発を行う。

適材適所におけるミドルリーダーの育成

(推進の主体：校長・教頭)

- ①固定観念にとらわれず、さまざまな可能性を広げるための人材起用を行う。
- ②教職員と積極的にコミュニケーションを重ね、一人一人のよさや能力を把握することに努めるとともに、助言や指導等を通じて資質・能力を育成する。
- ③先進校の事例を積極的に紹介し、学校運営の選択肢を広げることができるように仕組みづくり、仕掛けを行う。

情報活用能力育成に向けた教育課程の編成・改善

(推進の主体：教務部・研修部)

- ①情報モラル教育を含め、情報収集・選択・活用能力を各教科でどのように育成していくかを整理し、共有する。(市の情報活用能力計画表を参照する。)
- ②各教科の授業において、見通し→課題把握→思考・判断・表現→まとめ・振り返りが適切に位置付けられ、生徒自ら「学びを調整する力」をはたらかせることができるよう、意図的・計画的な学習指導を年間を通じて行う。

働き方改革・業務改善の推進

(推進の主体：運営委員会)

- ①特別委員会を精査し、会議の数を1つでも削減・縮小するよう努める。
- ②さくらメール配信の積極的な活用(学校だより、部活動以外の活用は可能か)を図る。
- ③会議における提案の在り方(事前のデータ送信、説明の工夫)の改善を図る。

経営の検証・改善

説明責任が果たせる客観的な根拠に基づく検証・改善

生徒の姿をとおした教育活動の検証・改善

学習の徹底

学習の徹底

○焦点化 ○見える化 ○徹底・検証・継続